

みず 水

ぐるま 車



(財)新松戸郷土資料館館報

第8号



財団法人 新松戸郷土資料館

〒270 千葉県松戸市新松戸3-27

新松戸市民センター(三階)

電話 0473-44-1909

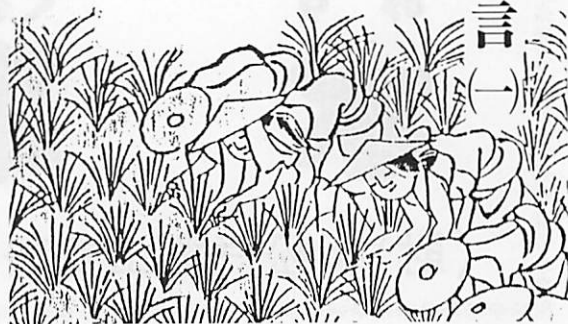
発行年月日 平成7年3月末日

もくじ 昭和46年5月最後の田植え 表紙
大谷口新田

方言(一)

- ◇元旦・七草粥..... 2
- ◇蔵開き・お日待・一畝・堀汲み..... 3
- ◇繭玉・御籠・小豆粥..... 4
- ◇稲の花・恵比寿講・天神講..... 5
- ◇抱瘡日待・節分..... 6
- ◇初午祭・大杉祭..... 7
- ◇日誌抄・館利用案内・編集後記..... 8

方言

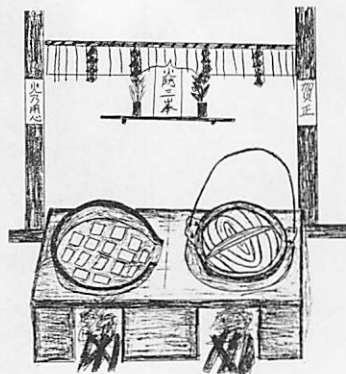


方言とは、日本語大辞典によると一言語のうちで音韻、語彙、文法などの特徴によって共通語と区別される地域的言語体系、またその地域特有の珍しい語の意とあります。日本語の区画は、本土方言と琉球方言とに分けられ、さらに本土方言は八丈・東部・西部・九州方言の四つに分けられます。東部方言はさらに東北・関東・東海東山方言の三つに細分されます。千葉県の方言は関東方言に含まれるといわれています。

その特色の一つにはべい・ぺえ・べ・べい・ぺえ・べなどの語があり、

この辺りでは、濁音のべい・ぺえ・べが使われます。松戸市の中も大きく三つに分かれます。和名ヶ谷・大橋・高塚・紙敷などの東部地区ではべえ・なあも使われますが、特色としてはじいという語が語尾につくことがあります。宿場といわれた小金と松戸は、商人の多く居る町で言語が入り混っている部分があります。べえも使いますが、総体的には言葉が柔かいことが特色とされます。農家がほとんどの下谷と呼ばれる大谷口新田（新松戸）・七右衛門新田・九郎左衛門新田・主水新田などはべえ・べい・べが使われ言語は少し荒いと思われま。昭和四十八年から始まった区画整理事業によって新しい街として生まれ変わった大谷口新田ですが、下谷の言葉が現在でも残っていて、神社などの行事ではこの言葉が使われます。区画整理以前の行事や農業を中心に、また解り易くするために会話の形式をとって方言を残すかたちを取りました。一つの村でも微妙に言葉や習慣の違いがありますが、比較的豊かで行事なども昔どおりにとり行っていた大谷口新田の家を基にしてまとめてあります。

元旦



下谷の正月の三ヶ日は、男の人が雑煮の仕度を受け持つという風習があり、今でもそれを守っている家が数軒あるそうです。その家の主が初水を汲み、神棚、仏壇、家内の稲荷様へ供えます。蔵や納屋、井戸などにも御神酒とお供えをあげて元旦の朝が始まります。その年十五歳になる長男は、お日待ち（現在の成人式に似る）を迎えるので、正月の仕度を手伝うことが決まりになっています。

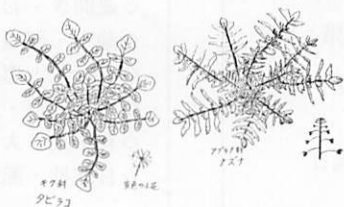
ちゃん「おめえな、起きたら一番先にな、初水、桶にくんで取ってあげ。その水で、神棚と仏壇に初水あげて、雑煮も作るだから。顔洗ったら、稲荷様、神棚、仏壇、荒神様、蔵、井戸端におそねえ、半紙ひいて、かざっちゃいよ。」

男年寄「御神酒はおれ、あげてやっから。」

ちゃん「おれは、雑煮のだし作るから、ほうろくで餅焼きやれよ。おんだはなあ、早く鎮守様におめえり行くだぞう。」

おそねえ「おそねえ。鏡餅
かざっちゃいよ」かざりなさい
おんだ「自分
おめえり」お参り

七草粥



お正月の三ヶ日は雑煮を食べますが、四日の日は麦飯とろろ、七日は七草粥を食べます。七草粥は七種類は揃わないので、青くささのない薺が主で下谷では、薺とお餅を入れた七草粥を食べて邪気を払いました。

女年寄「あしたは七草だんべ、なずな採ってこお。南の畑のおいの先で採ってきた方がよかんべえ。」

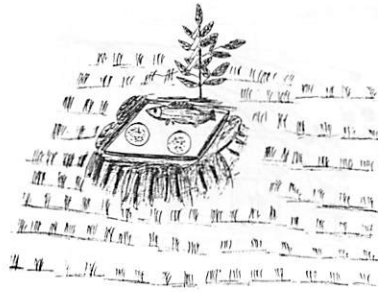
おっかあ「おーい。おげえできたぞー。餅とけねえうちにな、早く食っちゃうべえや。神様によ、あに、あげちやえよう。」

こおきなきい

おい霜除け用のよしず囲い

おげえおおかゆ

蔵開き・一鍬・お日待



下谷では一月十一日に、新年に初めて蔵を開く「蔵開き」と、「ひとくわ、さつくりこ……」と唱えながら田に初めて鍬をいれる「一鍬」という行事が行われます。

それと同時に、「お日待」といって数えの十五歳になるお祝いの日でもあります。

ちゃん「今日はよう、あにい、蔵開きだからよ。あきのかたはよう、

今年辰巳の方だよ。米洗ってな、塩と生ぐさ(するめなど海の幸)と、神持ってよ、田をいつつぐれえ、まんのうで起こしてよ、そこによ、おそねえしてこおよ。おめえの朝の仕事だよ。それ終わったらなあ、雑煮食ってよ、八時までに鎮守様にな、出てけよ。今日はなあ、おめえは十五になったんべ。村のわけしらの仲間にへえるだぞ。仲間へえれば、ちゃんも村のいちにんめえとして、おめえのこと、代理に出せるようになるだよ。」

あにい「今日から、おれだつてよ、いちにんめえの男だよ。だけどよう、世話人のあにきらに、いちんち中、買物、飯炊き、お酌で、くたくたなほど使われちゃうんだよ。だけどよ、明日からはよ、いちにんめえで扱ってくれんもんなあ。」

あきのかた「恵方」のこと 年神様がくる方向
いつつぐれえ五鍬ぐらい
まんのう万能。田畑の荒起こしに使用される鍬
おそねえしてこおよお供えして
来なきい

おめえおまえ
鎮守様村内の神社 ここでは稲

荷様

わけしら若衆

へえればはいれば

いちにんめえ一人前

いちんち中一日中

使われちゃう使われてしまう

堀汲み



一月十三日には、「堀汲み」といって個人所有の池や堀を一年に一回汲みだします。その時に、鮒や鯰を取り、藪入りの時のごちそうや、土産にするために、昆布巻や甘露煮にして保存しました。

ちゃん「今日は堀くむべえ。風も昼くえは、おさまるべえ。」

女年寄(あにい)「おっかあは堀の廻りの草や、藪刈っているよ。ちゃんは水車かづいで出かけたから、

ウツルと魚とるザルと泥ハライ持つてけよなあ。」

ちゃん「このへドロ、くんじゃねえと、来年魚へえなくなっちゃうよ。おめえも、ウツルくんで見ろよなあ。」

あにい「ウツルってむずかしいなあ。」

ちゃん「昔の人はな、へたな人とやるんなら、柳の木の方がまじだつて、ゆつたからな。おっかあ、堀の中にへえつて、ウツルのしり、おっぺせよ。」

おっかあ「冷たすぎていてえなあ。しびれて手足がばかになっちゃうよう。」

あにい「おれも中へ、へえるかなあ。鮒を先に玉網でとっちゃうから。いっぺえ、いるなあ。」

おっかあ「なげえ棒もつてこいよ。鯰はふけい所にいるからな。かっぱきだすんだよ。」

ちゃん「早くあがれよ。ばあがせいふるたてであるから、へえっちゃえよ。鮒は串に刺して焼いて、弁慶につるしちやおう。鯰は、ふぐざるに入れて堀にいれとけよ。」

かづいでウツル桶にひもをつけて、二人

一組で水やへドロなどくみ出す道具

おっぺせい押せ

なげえいながい

かっぱきだすいかきだす

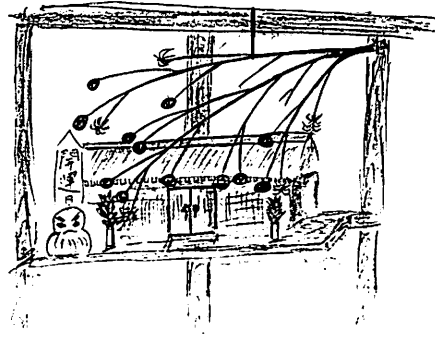
ばあおばあさん

せいふるいおふる、掘風呂

弁慶魚の串などさす、わらを束

ねたもの

繭玉



て、さみいなあ。」

ちゃん「そんなことゆってたらな

あ、仕事に*なんめえよ。早くやっちゃいよ。終わったら、めえだまあげ

る柳、取ってこいよ。あしたはよ、若餅ついてあげるから。それとな、柿餅とあられもついちゃうべよなあ。」

あにい「そんなにいっぺえ、つく

のかよ。たいへんだなあ。」

おっかあ「早くおきろよ。餅ふけ

ちゃったよう。今日は二俵もつくだ

べよなあ。のそのそしねえで、仕度

しろよう。」

ちゃん「あきねえうちに、めえだ

ま、さきに*せちちゃうべえよ。」

あにい「うまくできねえなあ。」

ちゃん「あんまり粉つけすぎだよ。

手早くしねえと、かたまっちゃうべよ。」

おっかあ「あーあ。やとつき終

わったよ。くたびれたなあ。菜っぱ

のこうこで、お茶でものむべえ。」

ちゃん「めえだまあげてしまうべ

え。たかだなは餅が十二個、花は五

個だよ。他は三個で花は一個ずつ。

稲荷様には三ヶ所あげるんだぞ。お

ぼいておけよなあ。あにい。」

ついでに強くて

さみい寒い

なんめえよなんないよ

めえだままゆ玉

いっぺえいっぺい

こせちちゃうべえよこさえてしま

おうよ

つけすぎだよつけすぎだよ。

たかだな神棚

おぼいておぼえて

御籠



それとなあ、村の月の行事やいろいろ

んな相談をするんだよ。」

あにい「そっか、心経あげるんか。

わらねなおれ、苦手だよ。」

おっかあ「今夜は、さみから、風

邪引かねえようにどら着ていった

方がいいよ。闇夜だから堀っこに、

おっこちやねえようにな。」

ちゃん「重箱作ったか。」

おっかあ「ひっさき錫皿に入れて、

でい所にあるよ。今日はなんにもね

えから、これでよかんべえ。皿、忘

れねえようになあ。」

わらねな笑っちゃうな

堀っこ小豆な川、堀割

おっこちやねえようになおちな

いように気をつけて

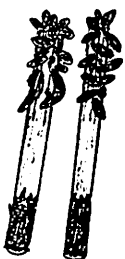
ひっさき錫を焼いて裂いたも

の

でい所台所

よかんべえいよいよ

小豆粥



豆粥を作り、仏壇などに供えました。この時使う箸は川柳で作ります。柳の枝に小豆粥がつきやすいように、先端を四つに割り、さらにギザギザをつけました。そして箸に小豆粥をつけた形で一膳ずつ供えました。その後、氏子一同が神社に集まり小豆粥を奉献しました。

十六日前後は藪入りで、休養日でした。嫁、奉公人などが実家に帰り休みます。迎え入れる家では、精一杯のご馳走を用意して待ちます。鏡餅をくずしたものを鮎で煮た、ぜんざいはそのご馳走のひとつでした。おっかあ「今日は小豆粥だから、作っておいた柳の箸にお粥つけてあげろよ、あにい。」

あにい「どことどこにあげんのかあ。」
おっかあ「門松とった所と、神棚、仏様、荒神様、稲荷様、井戸にもなあ。」
あにい「すいぶん、いっぺえあんだなあ。」

ちゃん「今日は、うちから出た人子供いっぺえ連れて来るからな、賑やかだなあ。」

ちゃん「下谷で育った人は、川魚好きだからなあ。特に野々下のおか

あは鮎の煮たの好きだんべえ。でけえ鮎いっぺえくわせてやんべえな。」
男年寄「昔の人はな、よく話してたよ。次郎兵衛殿のちゃんが下谷で初めて鮎くった人だって。遠くからどんな人が食ったか見に来たって話残っているよ。鮎くうようになったのも、あんまり昔の事じゃねえようだ。」

いっぺえあんだなあ。たくさんあるんだなあ

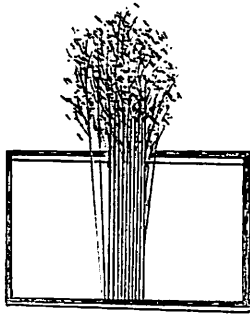
好きだんべえ。好きだからな

でけえ。大きい

くわせてやんべえな。食べさせてあげよう

次郎兵衛殿。屋号

稲の花・恵比寿講



一月二十日の朝は、稲の花の行事があります。豊作を祈って、みこ(稲

の穂のしん)に米の粉をつけて、神棚、仏壇に供えます。又、夜には恵比寿講があります。一年間元気に働けることを願って、恵比寿様と大黒様にごちそうを供えます。ここ下谷では生きた鮎二匹と金銭を入れた一升枧とを高脚のお膳にのせて供えました。この鮎は翌日には放流したそうです。ちゃん「けさは、ばかっさみなあ。大寒だからさみ時はさみかねえと米とれねえからなあ。」

あにい「稲の花はみこ一尺ぐれえに切って、そろえて水につけて、米の粉くっつけばいいだんべ。それで、門松立てた所と神様にあげればいかんべ。」

ちゃん「今夜は恵比寿講だから、かけ鮎二枚とってこいよ。」

あにい「今日は坂川全部氷張りつめてるよ。少しあったかくなねえと、舟動かねえな。玉網でかついて取るよ。さみから鮎だつて動けねえから、取るのは楽だよ。」

ばかっさみなあ。ひどく寒いなあぐれえ。ぐらいい

かけ鮎。お供えする。十五五センチ位の鮎のこと

かついて。しゃくりとって(すくう漁法)

天神講



一月二十五日は天神様の日で、この日に天神講を行う地区が多いようです。天神様の祭神は菅原道真で、学問の神様として信仰されるようになります。天神講は子供達の講で六年生が長となり神社に一晚泊まって楽しく過しました。この日は笹竹に二十五個の団子をつけ神様に供えました。

おっかあ「今年は天神講の宿だから、お宮に早くいって、お参りの人に御神酒を出さなくっちゃ。雪になりそうだ。」

女年寄「風邪ひかねえように綿入れ着ていけよ。」

ちゃん「あられ降ってきたな。しんこ餅ついちゃべ。」

女年寄「もち草少し摘んであっから、草もちつくべよ。初物だよ。今の草つみたいへんだったよ。くこの

茂みの中は少し伸びていたからな。」
ちゃん「今の草もちは、うめえからな。」

あにい「おれが天神様にあげにくのか。さみいなあ。」

女年寄「笹に二十五団子くつつけるんだよ。おっことさねえように行つてこいよ。それから、ちゃのこにすべよ。」

ちゃん「あれ、二郷半のおとつちやんだよ。さみいところ、わざわざすいませんね。」

二郷半のおとう「やー。今日こねえと年始参り終わっちゃうからよ。こんな日はよ、下谷の方は雁がおりっからな。鉄砲もつて来たんだよ。」

ちゃん「こんな日はよ、よく差向中に雁がおりるもんな。鉄砲ぶちは、ちゃんとねらつていんだなあ。」

天神講の宿Ⅱ小学上級生の家が当番になる

ちゃのこにすべよⅡ朝ご飯にしよ
うよ

二郷半Ⅱ二郷半領、現在の埼玉県吉川町、三郷市あたり。二合半ともいわれた

差向中Ⅱ現在の新松戸三丁目Ⅱ五丁目のまん中あたり

鉄砲ぶちⅡ鉄砲をうつ人

疱瘡日待



二月一日は疱瘡日待といい、女の人が集まり、安産や子供の成長を願う行事が行われました。昔は流行病として恐れられていた疱瘡(天然痘)を追い払い、軽くすむことを祈る形をとっていたので、疱瘡日待といわれました。

この日は東福寺の住職にお経をあげてもらい、小豆飯を炊いて神様に供え、代参人が市川にある真間の手児奈堂(安産、子育ての神)へお参りに行きました。

女年寄「今日は疱瘡日待だ。あねさまら、一日年寄たちの、なんぞなどいって、ませめしくつて、むさばらしする日だんべえ。たまにはよかんべえ。」

おっかあ「そんなこといったって年寄りなんぞなんか、しゃべる人はいつもきまっただねえさんしかいねえよ。」

男年寄「昔の人は、うめえこと考

えたものだなあ。嫁っ子もらうと仲間入りさせて、村の習慣しこむのは、よかんべえ。」

女年寄「今年の代参人はどこんちだ。」

おっかあ「今年は、上の家、下の家だよ。あの二人は仲がいいから、よかんべえ。」

女年寄「あまり気の合わねえ人と当たると大変だったよ。昔は歩きだから、真間までは三時間はかかるべえ。えらく遠く感じたよ。今は便利になったなあ、今の人は疱瘡にかかった人の顔、*またことあんめえ。昔はずいぶんいたよう。かしんぼくつていったんだ。」

おっかあ「どうして東福寺の坊さん呼ぶのかなあ。」
女年寄「昔からずうっとだから、わかんねえなあ。」

あねさまらⅡ若奥さん達・嫁なんぞⅡ悪口・かげぐち
ませめしⅡ五目飯
むさばらしⅡうさばらし
年寄りなんぞⅡ年寄りの悪口・かげぐち

上の家・下の家Ⅱ屋号
みたことあんめえⅡみたことない
だろ

だろ

節分

かしんぼくⅡ痘痕・あばた



節分とは季節の分かれめという意味ですが、一般には立春の前日を指します。古くは立春を一年の始まりとした為、大晦日としての性格もあつたでしょう。鬼打豆をまいて鬼を追い払うなど邪気を防ぐための行事です。

家の中へ悪い物が入つてこないよう、豆がらに干鰯の頭をさし、*柀をしばつて魔除けを作り、戸口へさしました。その後、神様にそなえた豆をまきました。

男年寄「今日は節分だな。日の入りも少し長くなったみていだなあ。あにい、豆がらに目刺の頭をさして、*柀と、*たかだなど、*稲荷様と馬頭観音にあげるんだよ。」

女年寄「今日もしぐれて、うっさみい日だな。豆まきの頃はいつも天気わりかんべえ。はつんまの早い年

気わりかんべえ。はつんまの早い年

は火のまわりも早いってから、火の用心しなくっちゃ。めいねん分家の人も稲荷様に豆まきに来てくれるから、御神酒用意してあっかなあ。」

ちゃん「おれは、お寺の豆まきだ。お寺はめいねん、派手になって銭かかるようになったなあ。」

おっかあ「あにいが鎮守様の豆まきにいけな。柘に豆へえってるよ。柘、目刺は紙にくるんであるよ。ひっさき鯛も皿にへえってるから、それでいかんべえ。」

とぼくち〓戸口

うっさみい〓薄寒い

わりかんべえ〓悪いだろう

はつんま〓初午。二月の最初の午の日。稲荷信仰と結びつき、稲荷の

祭日とする所が多い

めいねん〓まいねん

へえってる〓入っている

いかんべえ〓いいだろう

初午祭



二月の最初の午の日に行われる行

事です。京都の伏見稲荷神社の神が降りた日がこの日だったからといわれます。全国で稲荷神社を祀ります。屋敷神として祀ってあるお稲荷様にのぼりをたて、油揚げ、赤飯、海山の幸を御膳として供えます。

古くは神社総代が皆集まってお祈りをし、来年の当番への引き継ぎ、御当の引き渡し式をすませた後、当番の家で直会をしました。宿にあたる人は、初午の前に宮堀（お宮が特別に所有していた堀）をさらって鮎、鰻、ギンギョッパチ等をとってご馳走をそろえました。昭和に入ってから簡素化されて一家の主人だけが神社に集まってとり行うようになりなりました。

女年寄「今日は初午だなあ。午の日は早い年は火の廻りがはやいってゆってたかんに、火事には気をつけなくちゃあ。」

おっかあ「今年は宿だから大変だよ。早くちやのこくっちゃんねえと、近所の人をきしやうよ。」

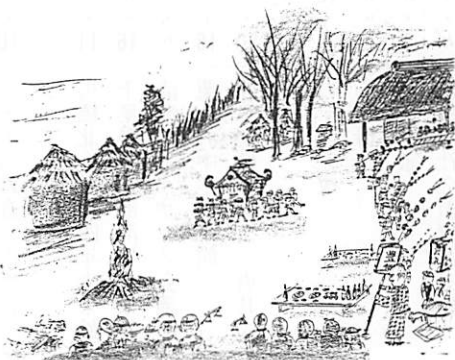
ちゃん「うちの稲荷様にも、のぼりと御膳あげ早くやっちゃうべなあ。」

おっかあ「あらい米と野菜は作ってあるよ。御神酒をあげてなあ。」

くっちゃんねえと〓食べてしまわないと

きしやうよ〓来てしまいうよ

大杉祭



下谷の大杉神社では、昭和三十年位まで阿波様とも呼ばれる祭礼が毎年二月二十七日にとり行われていました。

若衆連が前日より飾り花や御供物等を作って準備をします。若衆頭（祭の責任者三人）が役割を決め、御輿が村内の各戸を順に渡御します。御輿の来るのを各家々では門前かががり火をたいて迎え、御輿はその火を蹴散らすようにして進みます。

御輿をかつく若衆連には、草餅、

赤飯、煮しめ、酒、甘酒などが振舞われます。また見物人も近郷近在からたくさん集まり、賑やかなお祭りだったそうです。

おっかあ「餅ふけたよ。早くつかねえと草餅はひまとれるからよ。中根のばっちゃんちへ、お宮に行くめに届けてくれよ、あにい。」

あにい「おれ、初めて御輿かづぐんだべ。肩はれちゃうべなあ。」

ちゃん「はれてから強くなるだよ。この村の御輿は火の中へえって、かつちらかして火消える迄、もむだなあ、昔の人は、もっとあばれただよ。」

あにい「火よりぼっち、ぶっくれげえす方がおっかねえべなあ。」

ちゃん「いつも、ぼっち、ぶっくれげえされたり、戸袋ぶんぬかれたりする家は、きまってえべ。だから、えはったり、ずるがしこい事しちゃんいけねえだよ。」

あにい「うめえ事やるなあ、御輿のせえにしちゃって。後始末は頭がしてくるから、おれ達に関係ねえや。」

ひまとれる〓時間がかかる

かつちらかす〓かきまわす

ぼっち〓家の形にわらを積みあげて干してあるもの

ぶっくれげえす〓倒す

日誌抄

平成六年

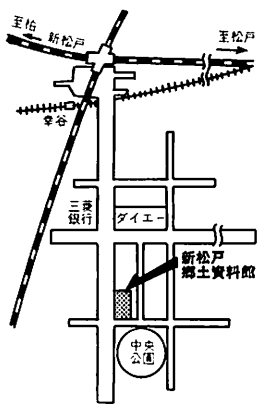
1・7	全体会議
〃・12・14	ビデオ企画検討会
2・26	新松戸西小学校三年生来館 全体会議
〃・〃	旭町小学校三年生来館
〃・9	馬橋北小学校三年生来館
〃・18	馬橋北小学校三年生来館
〃・23	下妻市教育委員会来館
〃・24	横須賀小学校三年生来館
3・2	全体会議
〃・3・23	TBSテレビ取材協力
〃・6	館長講演(矢切市民会館)
〃・9・15	千葉テレビ取材協力
〃・27	明治時代の教育年表展示 理事会
〃・29	研修(水戸道をたずねて) 全体会議
4・5	研修(水戸道をたずねて) 全体会議
〃・6	全体会議
〃・8・15	シナリオ会議
〃・22	新松戸南小学校三年生来館 全体会議
5・11	研修(森のホール)
〃・15	松戸市社会教育課来館
〃・21	幸谷小学校三年生来館
〃・25	ビデオ制作会議
〃・26	松戸市社会教育課来館
〃・30	理事会

6・1	研修(松戸市立博物館) 全体会議
〃・〃	ビデオ制作会議
〃・3	研修(流山文化会館)
〃・4	「川をきれいにする推進本部」行事に協力
〃・5	「親子が川で集うイベント」に協力
〃・7	研修(先進地視察)
〃・28	研修(松戸市立博物館)
〃・29	松戸市社会教育課来館
7・6	全体会議
〃・14	古ヶ崎浄化施設通水式出席
〃・15	松戸市役所、マレーシアより視察
〃・20	ビデオ制作会議
〃・26・27	第11回子供歴史教室開催
〃・〃	ビデオ撮影
〃・30	松戸市文化ホール行事に協力
8・3	全体会議
〃・5	松戸市教育長他来館
〃・7	ビデオ撮影
〃・24	子供歴史教室再会日
〃・〃	館報水車第七号発行
9・7	全体会議
〃・27	松戸市景観担当室来館
〃・30	松戸市公園緑地課来館
10・5	全体会議
〃・〃	松戸市景観担当室来館

10・8	ビデオ撮影
〃・16	「川をきれいにする推進本部」に協力
〃・19	松戸市公園緑地課に取材
〃・21	松戸市保育課に取材
〃・22	第1回ビデオ試写会
〃・〃	松戸市教育長、学芸員来館
〃・27	ビデオ撮影
11・2	全体会議
〃・〃	ビデオタイトル決定(新松戸の歴史抄―千歳のゆくえ―)
〃・10	第2回ビデオ試写会
〃・〃	ビデオの録音(市ヶ谷スタジオ)
〃・11	馬橋北小学校四年生来館
〃・16	千葉県土木部河川課来館
〃・〃	清流ルネッサンス会議出席
〃・18	栗ヶ沢中学校来館
〃・20	展示物模様換え(道具)
〃・27	花咲講
12・3	ビデオ完成
〃・6	花咲講
〃・7	全体会議
〃・〃	松戸市社会教育課来館
〃・18	ビデオ完成試写会(新松戸郷土資料館内)
〃・26	清流ルネッサンス会議出席
〃・〃	松戸市長、建設省来館
〃・28	大掃除・仕事納

〈資料館利用のご案内〉

- ▽開館日 毎週水曜・日曜日
- ▽時間 10時～16時(ただし、入館は15時30分迄)
- ▽入館料 無料
- ▽所在地 松戸市新松戸3-27
新松戸市民センター3階
- ▽電話 ☎44-1909



編集後記

方言を集めるといふことは、案外厄介なことが出てくる。こんなエピソードがあった。「村の年配の方達が集まるようなことがあったら、方言を少し集めたいので」とある方へ連絡を入れた。その方いわく「自分の地域はもう方言で話す人はいない」と答えた。録音しなかったのが残念なのだが、方言で話されていた。